

Fureai

Fujita Related All Information

2026 1.1

Vol.
309

「社長より年頭の挨拶」

個々の挑戦・成長で
更なる進化を目指す

【年男・年女 大集合!!】
午年生まれ32名の今年の抱負

【報告】
2025年度上期 優秀小集団

2026 年頭の挨拶

新年にあたりご挨拶を申し上げます。

明けましておめでとうございます。

2025年を振り返ると、世界各地で続く地政学的リスクや自然災害への懸念など、不安要素を抱えた一年となりました。国際情勢の緊張や気候変動の影響を身近に感じる場面も多く、先行きの不透明さを改めて実感する年でした。そのような中ではありましたが、大きな事故や天災などに見舞われることなく、無事に一年を終えることができたことに感謝したいと思います。

また、世界経済は引き続きアメリカの政策動向に大きく左右されました。トランプ大統領のもと、アメリカファーストを前面に押し出した通商政策や関税政策が実行に移され、各国経済や為替市場に影響を与えました。中国経済についても成長の鈍化傾向が続き、以前のように世界経済を牽引する存在とは言い難い状況にあります。一方、日本経済は物価上昇が落ち着きを見せつつある中、個人消費や底堅い設備投資等が景気を下支えしたと言われています。10月に高市政権が誕生し、女性初の内閣総理大臣となった高市首相の政策が日本にとって良いものになることを期待したいと思います。

鉄鋼業界に目を向けると、建設業界の働き方改革からくる建設案件数や公共工事数の頭打ちが構造的な問題となつて

いることから、ここからの鉄需の劇的な変化・良化は望めなくなつてきています。製造業についても、アメリカの関税問題や建設内需の落ち込みに関連した需要減が一定程度出てきており、鉄鋼需要は全体として低調な状況が続いています。価格面では、なかなか上向かない国内市況において、鉄鋼メーカーは輸入材を中心とした安値材への対応として、ステンレスと表面処理鋼板の一部の輸入鋼材に対しアンチダンピング措置を提訴。その調査が開始されており、結果として下値の下げ止まり感が出てきている状況です。

藤田金属では、新しい6カ年の中計「LEAD THE REGION」が4月から始まりました。内容は4月に各地でご説明した通り、前期中計のうまいくいった点をさらに伸ばし、できなかった設備投資を必ず6年でやり切る。さらには全社最適や新規事業といったキーワードもプラスしてチャレンジしていく内容にしました。7月には全社最適を促進するための商材販売促進説明会を開催し、10月には1年間活動してきた新規事業室メンバーによるピッチコンテストを行いました。皆さんは何を感じたでしょうか。「頑張る仲間を応援したい」「次は自分がチャレンジしたい」「他の事業部の人はこんなことを考えているのだな」など、何かしらご自身の新しい気づきや刺激になっていたり、モチベーションアップに繋がっていたりしたら嬉



代表取締役社長

今井幹太

しいです。これからも今までの藤田金属になかった新しいことに挑戦する、そんな機会や雰囲気をつくり続けていきたいと思っています。

決算までは残り3カ月となりました。残念ながら経常利益で目標の14億円には届かない見込みです。しかしながら、事業環境が厳しい中でも皆さんが各持ち場で精一杯努力をしてくれているおかげで10億円超えは見えてきており、健闘できていると思います。残りの3カ月間、引き続き、皆さんの力を貸していただき可能な限り上積みができるよう、一人ひとりがやれることをやり切ってください。

最後に、今年度は12月25日時点で9件の災害が発生しています。近年では最も多いペースです。幸い、生死に関わるレベルの災害はありませんが、一歩間違えれば重症となる危険のある災害も散見されます。今一度、安全に対する意識、自分も仲間も怪我をしない職場をつくるという強い気持ちを持って行動に移していきましょう。

以上、本年も皆さんとご家族にとって健康で幸せな一年となりますよう祈念し、新年の挨拶といたします。ありがとうございます。

2026年1月5日

優秀小集団

- 1 活動選定の経緯と概要
- 2 苦労したこと、
苦労に対して工夫したこと
- 3 活動の成果

東北コイルセンター／生産チーム 倉庫班

出荷段取り作業時間の短縮

1 2024年問題の「トラック待機時間（荷待ち時間）」に対し、東北コイルセンターでもドライバーが2時間以上待機しているケースが多く見られました。この課題を解決するため、倉庫班内の作業内容を見直し、業務改善に取り組むことにしました。具体的には積み込む前の段取り作業を効率化し、待機時間を少しでも短縮することを目指して、このテーマで活動を進めることにしました。

2 今回の活動では、どのように改善すれば効果が出るのかメンバー間で意見が分かれ、まとまらないことや、情報共有が不十分なために進捗の遅れや課題の把握ができていなかった時がありました。また、目標設定をする際、数値目標がなかなか定まらず、活動の方向性が不明確になることもありました。それでも、メンバーのさまざまな意見を尊重しつつゴールを明確にし、役割分担をしながら取り組むことで、達成感を共有することができました。

3 1日当たり4時間19秒かかっていた出荷段取り作業時間について、「1日当たり37分26秒の短縮（段取り作業時間全体の15%削減）」を目標として設定しました。倉庫班メンバーで対策を検討・実施した結果、実際には「1日当たり1時間7分49秒の短縮（28%削減）」を達成し、目標を大幅に上回る効果を得ることができました。さらに、コスト削減効果として76万4,363円の有形効果も得られ、非常に成果の大きい小集団活動となりました。

評価ポイント

2025年4月より施行された物流効率化法の努力義務である「荷待ち時間の短縮」に繋がる取り組みとして成果を創出した（出荷段取り作業時間：改善前4時間19秒／目標37分26秒の短縮／改善後1時間7分49秒の短縮（28%削減）。時短に加え、副資材削減等も実施し、有形効果として年間76万4,363円の成果に繋がった点を評価したい。